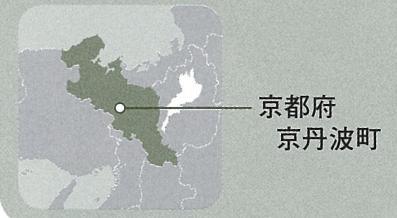


クラブ復活、楽に活動できる クラブを目指して

京都府京丹波町 須知らく・らく会
●会員数71名（男性22名、女性49名）



小学校で須知小唄の指導と交流

地域に伝わる「須知小唄」を 地区メンバーと復活

また、高齢者が今までの経験を受け継いで

お花見会、日帰り旅行、新年会などの行事に参加する際は、その都度参加費を徴収します。それでも、会の収入はいろいろな補助金などもありますので、会員の負担は行事費用の半額程度です。行事参加者は毎回7割を超えて、楽しく元気に行事を進めています。

高齢化が進む中ですが、老人クラブの勧誘には一苦労しているのが現状です。私の住む地域の長年続いていた老人会・松寿会も、高齢化と世話をすると人がないために5年前に解散しました。しかしその後、「須知らく・らく会」として復活させ、現在では京丹波町老連で最大の会員を擁するクラブになりました。

クラブ復活に向けて

解散はしたもののなんだか寂しいとの声を耳にしましたので、地域の数人に呼びかけて

再出発しようと考きました。検討を重ねた結果、10人の設立発起人をおいて発足趣意書をまとめ、次のことを呼びかけました。

- ・高齢者が喜びと生きがいを共有し、健康でいきいき生活することはもちろん、高齢者同士が居住する地域で横のつながりを強め、助け合う地域コミュニティを形成することが重要な役割であること。
- ・今までに経験した知識や文化を将来へ伝えていくのも大きな役割。
- ・交流を深めて活躍することで、地域社会で認められる存在になりたい。

会の名前はみんなで考え、会員が気楽に、

会のシンボルマークは「みみずく」です。
雒・つながる、絆
洛・つらなる、続く
Luck・幸せ、ラッキー
雛・鳥の名前みみずく

らくに長く活動できるように名づけました。「らく」は次の意味を持ちますので、あえてひらがなにしました。
樂・楽しく、樂な気持ち
絡・つながる、絆
洛・つらなる、続く
Luck・幸せ、ラッキー



町の夏祭りで踊りを披露

きた文化を後々まで伝え残していくのも役目だと考えています。特に、私たちの地域に古くから伝わっていた「須知小唄」は、80年以上前に作られ、地域のお祭りや学校の運動会ほか地域の様々な行事で唄い踊られてきました。しかし時代の流れで、半世紀前に途絶えていたのです。それを復活させようと須知地区で話が持ち上がり、苦労の末に再現しました。「須知小唄」愛好会も出来ました。メンバーは6割程度が会員、あとは地区の若い方たちです。テープに再現されたものをCD化しました。唄は会員が唄っています。

支援交付金事業に申請して、「須知小唄」で使用する踊り用ハッピ、演奏用ワイヤレスアンプが購入でき、地域の夏祭りなどの行事に活躍しています。

中でも町立ひかり小学校では、「地域の伝統文化を学ぼう」と授業で取り上げて頂き、6年生38名と教職員の方々に須知小唄を披露した後、唄と踊りを教え、地域の古い歴史も話しました。大変喜ばれて、感謝を込めて生徒全員の寄せ書きを戴きました。これからもいろいろな機会に文化を伝えていこうと思つております。

して、スカットボール、輪投げ、ゲーゴルゲーム、ストラックアウト、フライングディスクなど、器具を使った簡単なスポーツをみんなで楽しんでいます。
今年は子ども会に呼びかけて、一緒にミニスポーツを計画しています。子どもたちとすることにより、ふれあいと元気をもらえます。地域の方々と一緒に活動して、共に元気でいいと思います。

（会長 青木勝弘）



北から南から